

米国以外の国の動き

- カナダ、オーストラリアにおける飲酒可能年齢の再引き上げは行われていない。しかし、オーストラリアでは、若者の「binge drinking」による問題が大きく、年齢の再引き上げを検討している州がある。
- ニュージーランドでは、年齢引き下げに伴い、年少者の飲酒関連交通事故数の減少率は成人に比べて低くなり、救急外来を訪れる酩酊した年少者数が増加したと報告されている。

まとめ(1)

人や動物に対する研究結果は、未成年者の飲酒の悪影響は、健康面でも社会問題においても成人に比べてより顕著であることを示している。

このような影響は、18~19歳が、それより年少者より少ないというエビデンスはない。

まとめ(2)

過去に飲酒可能年齢を変動させた国では、引き下げにより年少者のアルコール消費量や飲酒関連交通事故数の増加、引き上げに伴いそれらの低下を経験している。

わが国では、18～20歳前半の若年女性の飲酒量が増えており、飲酒可能年齢引き下げで、さらに増加する可能性がある。